

なにがなんでも 火の用心!

火災をおこしやすい石油ストーブ

扱いには十分注意しましょう

石油ストーブの普及につれて、年々火災がふえており、火災の原因からみてもタバコ、マッチに続いて3位をしめております。石油ストーブから発生した火災は、焼失面積が広く損害も多いようです。次に、石油ストーブの危険な点をこれまでの事例にもとづいてのべますから、取扱いについては十分注意されるようお願いいたします。

◎落差式（反射型）

焰が大きくなって、強く燃える異常燃焼が多く、そのため、燃料タンクが暖められ、タンクの油が押し出されてこれに火がつき、そばのものに燃えうつたりします。出入口や窓から風が吹きこんだり、ストーブを持ち運ぶとき、このような異常燃焼がおこりますから、ストーブの「取扱注意書」をよく読んで、異常燃焼させないように警戒してください。

◎シン上下式（対流型）

縦長のスマートな対流型は、反射型にくらべて転びやすく、部屋の中央に置くせいもありますが、ふれたり、着物をひっかけた転び火災をおこした例が多くあります。最近ふえた自動消火装置も、まだ全面的に信頼がおけないようです。

◎加圧式

予熱や加圧が不十分だと、油が気化しないで、生ガスのまま出てくるので火災の原因となります。操作が面倒なため普及率が悪いようですが、古いこの式をお持ちの方は「生ガス」のモレに注意してください。

どのストーブの型にも多い火事の原因に、引火、油もれ、煮こぼれ、使用不適などがあります。

それは、次のような場合です。

引火……風が吹きよせられたカーテンやそばで乾燥させていたものに燃えうつたり、石油ストーブのそばでガソリンを取扱ったために引火したものの。また、給油時の油もれをふきとらなかったために引火した例があります。油もれについては、給油するときにポンプや給油罐を使えばものを防ぐことができます。

煮こぼれ……煮こぼれ防止をつけたストーブが増えましたが、煮こぼれして焰が大きくなり、周囲に燃えうつたという例もあります。

不適当な使い方……掘りコタツの中に石油ストーブを入れて使っている場合

火事の連絡はできるだけ早く

冬に入ると火災がうなぎのぼりにふえる傾向にあります。

暖房器具、正月を迎えるための不用品の焼却など、私たちの周囲は数多くの火

消火について

火勢があがったときは、周囲の燃えやすいものを取除き、戸や窓をしめて風が吹きこまないようにし、火災になりそうなときは、毛布をぬらしてストーブを覆い、上から水か砂をかけて消します。

冬期間中石油ストーブを使うご家庭では家庭用の小型消火器（粉末か泡消火器が適当）を備付けてください。

災の危険にさらされております。

もし、火事になったときでも、被害を最少限にとどめるため、次のことにご協力くださるようお願いいたします。

- 1、火事は最初の1分間が大切です。発見したら、すぐ消防署へ連絡しましょう。（最近、消防署へ火事の連絡をすると罰金をとられるという噂がひろまっているようですが、どなたが連絡しても決して罰せられません。状況によってははめられるときもあります。）
- 2、火事のときは、電話で「火事!」というと、すぐ火災専用電話で消防署へつながりますから、「〇〇町〇〇宅火事!」とはっきり告げてください。
- 3、野次馬は消火活動の邪魔になるばかりでなく、けがをする危険があります。火事場附近には、近づかないようにしてください。



時報は「愛の鐘」非常時は「サイレン」

大館ライオンズクラブ（会長野口弘）から市にミュージカル・チャイム（愛の鐘）が贈られましたので、12月1日からいままでの時報サイレンにかわり「愛の

鐘」を鳴らしております。

このため、サイレンは、火事などの非常時だけ鳴らすことになりました。

○音楽時報

「ウェストミンスター」の鐘の音から「また逢う日まで」の曲にかわり、引続き五つの鐘が鳴ります。この最後の鐘が時報です。

○奏鳴時間

午前6時、正午、午後5時、午後9時の4回。

横断歩道を わたりましょう

「歩行者用ガードレール」ができる

市内で最も交通量の多い大町と末広町の十字路へ、歩行者用のガードレールがつくられました。

これは、大館市交通事故防止対策協議会が市民を交通事故から守るために、総工費40万円をかけてつくったものです。

歩行者は、信号機（ないときは左右）をたしかめてから横断歩道をわたりましょう。

【写真】はガードレール

